

<実践報告>

情報資源組織論で NCR2018 をこう教えています

岡田大輔

1. はじめに

私は司書課程の教育に興味を持っているが、目録は詳しくなく、むしろ不十分にしか教えられていないと感じている。NACISIS-CAT などの目録系の経験もない。この稿の一番の目的は、「目録に詳しい方にこの教え方でよいか確認したい」ことである。「こういう教え方をするなら、自分だったらもっとこうする」などの皆様のヒントになれば幸せである。

2. 筆者の勤務する司書課程の現状

2.1 さまざまな学部の学生が 20 名程度

筆者が働く相愛大学は大阪市にあり、近畿地方では音大のイメージがある。ただ、司書課程の受講生には音大(音楽学部)の学生もいるが、人文学部の学生が多い。また、初等教育学を学ぶ学生や栄養学を学ぶ学生もいくらかは受講してくれている。授業は 20 名程度で行われている。

2.2 学生を指名し意見を言わせている

筆者の授業では教科書は指定していない。経済的な問題を抱える学生が多いこともあるが、筆者が考える授業に沿って進めたいためでもある。スライドと配布プリントを元に授業を進めている。

司書課程を通して、定められたルールを受け入れ運用できるようになるだけでなく、疑問を感じ現状を変えていける学生を育てたいと考えている。そのため、授業中に学生を指名し、「これでいい?」「お金かかり過ぎでは?」などと意見をよく求めている。答えてくれる学生は多い。図書館概論から「この“ぬいぐるみお泊まり会”好き?」「この本置いてもいい?」と言った、はい・いいえで答えられる質問から問い続けてきた結果が出ているとは思っている。

また、授業の最終回ではテストを行っているが、その 1 ヶ月ほど前から授業中に「テスト問題例」を予告することでも学生の意見を問うている。例えば、「情報資源組織論」では、

あなたは公共図書館で司書として働き、児童コーナーを主に担当しています。
アルバイトの学生が『学校の怪談』シリーズ(講談社青い鳥文庫)が、147(心霊研究)に分類されています。でも、子どもは怖い話を探す時に 100 番台は見ません。2 冊ずつあるので、1 冊は“ものがたり”の 913 に置き場を変えましょう」と言っています。どう答えますか。話し言葉で書く必要はありません。(考えや意見を書く問題)

を例題として聞いている。上司に決めてもらうのではなく、自分で判断しないといけない状況としてこのような聞き方にしている。そして、実際のテストでも同様の問題を出している。

2.3 質問感想を書いてもらい、次回の授業で答えている

授業では質問感想を毎回「大福帳」(図 1) に書いてもらっている。そして、次回の授業では 20

図 1 大福帳 (部分)

大福帳		コミュニケーション・カード	
担当 岡田 大輔	科目名	学籍番号	
学部	学科	なまえ 名前	
月/日	言いたいこと。聞きたいこと。あなたからの伝言板。		あなたへの伝言板。
第 1 回	-----		
/	-----		

第 2 回	-----		

分はかけて、書いてもらった質問や感想を紹介し、答えている。前回の復習も兼ねている。教え方が良くなかったと気づいたときなど、場合によっては筆者が自分で考えた質問をさもここにいる学生から出たかのように答えることもしている。

2.4 情報資源組織化系科目

2017 年度までの入学者は「情報資源組織論 1」「情報資源組織論 2」「情報資源組織演習 1」「情報資源組織演習 2」の 4 科目を必修としていた。ただ、筆者が学校司書のモデルカリキュラムの科目の持ちコマを捻出したいこともあり、2018 年度の入学者から「情報資源組織論」「情報資源組織演習」の 2 科目に削減した。それぞれ 2 単位 15 回の科目である。

現在、「情報資源組織演習」は非常勤講師の先生にお願いしている。そのため、以下では筆者が担当する「情報資源組織論」について紹介する。

3. 「情報資源組織論」

「情報資源組織論」は後期に開講され、2023 年 9 月現在も授業を進めている。ただ、学生が少しでも興味を持ちやすいと考える主題目録法から先に扱っているため、NCR2018 は現時点では取り上げていない。そのため、以下では 2022 年度に行った内容 (表 1) を紹介する。

3.1 第 10 回「目録と書誌記述法・日本目録規則 (NCR) の概要」

記述目録法の初回として、「タイトル・ページ → 奥付 → 背表紙 → 表紙 の順で優先」「タイトルや責任表示だけでなくページ数や大きさも入力する」などを扱っている。記述ではなく、「入力」という言葉を使って実際の作業をイメージさせている。記述という用語はこの科目の中では最後まで

表 1 2022 年度「情報資源組織論」

1 情報資源とは・組織とは	9 件名法と基本件名標目表
2 主題分析の意義と考え方	10 目録と書誌記述法・日本目録規則 (NCR) の概要
3 NDC 以外の分類	11 書誌コントロールの定義と種類
4 日本十進分類法 (NDC) の補助表	12 日本目録規則の構成と特徴
5 補助表 (地理区分)	13 書誌記述と書誌階層
6 補助表 (日本地方区分)	14 コンピュータ目録の概要: MARC
7 図書記号	15 まとめと到達度の確認 (テスト)
8 絵本の並べ方	

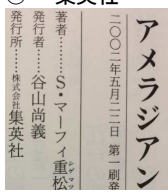
説明できておらず、「情報資源組織演習」の授業に、また将来的に影響が出ているかは分からない。

この回では、学生に「本に印刷された最後のページ番号を入れ、数えて足してはいけない」のルールでいいか」などを問うている。これに対して、学生の反応は「司書にとってはよいルールだけど、例として見たマンガのようにずいぶん手前の番号にするのは気にはなる」といった返答であったと記憶している。

大福帳には「表紙ではなくタイトル・ページを優先するとは思いませんでした」「奥付だけ見て入力するルールにすれば迷わないのでは?」ともっともな意見が書かれ、学生はある程度理解していると安心できる。また「同じ市町村に同じ名前の出版社があったらどうするのですか」といった予想していなかった質問が出るのも興味深い。

この回では、NCR が新しくなったことや、4 階層の話はしていない。ただ、NCR2018 から変更された、「出版地は「武蔵野市」のように「市」なども入れて記録する」「出版者はタイトル・ページに「株式会社岩波書店」とあれば「株式会社」も入れて記録する」が本則であるのは教えず、以前のまま教えた (図 2)。こうなったのは、この回ではどちらにも共通する内容を教えているつも

図 2 NCR1987 のまま教えている部分のスライド

<ul style="list-style-type: none"> ● (ふつうは)出版社の名前だけを書く × 谷山尚義 (← 出版社の社長の名前) × 株式会社集英社 ○ 集英社  <p style="text-align: center;">30</p>	<h3>6.4 出版地</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 出版者の市町村名を書く × 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 × 名古屋市 ○ 名古屋 東京23区の場合、「東京」 <p style="text-align: center;">31</p>
---	---


りであったが、NCR2018 で変わったのを筆者が知らなかったため、現在この稿を書くにあたって、蟹瀬 [1] を読みはじめて気づいたものである。

ただ、TRC MARC はどちらも不適用のようであり [2]、国立国会図書館も「市」は非適用 [3] としている。今期この後どう教えるのか、現在のところは決められていない。

3.2 第 11 回「書誌コントロールの定義と種類」

この回の最初は発行年の話をした後に、カード目録を題材に著者名典拠を説明した。著者標目という言葉は用いて、「各図書館でどの名前に固めていたか」と発問し、公共図書館では著者名典拠はほぼ行われてこなかったことを説明している (図 3)。大福帳では「作家さんなのに同姓同名っ

図 3 著者名典拠を説明するスライド (部分)

<p>4 典拠コントロール</p> <ul style="list-style-type: none">カード目録の著者名目録だと、一番上の行に著者名を書き、このあいうえお順に並べる  <p>国立情報学研究所「目録システム利用マニュアル」1.2 目録システムにおける目録情報 (http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/1.2.html) の図を改変</p> <p>20</p>	<p>6.1 図書館で受け入れた最初の本に書いてあった名前に統一</p> <ul style="list-style-type: none">受け入れるすべての本で同姓同名の判定が必要<ol style="list-style-type: none">同姓同名の人の本が図書館にないかいたら、同じ人か別人か同じ人だったら著者標目はそのまま別人だったら、生年を追加する<p>→ 前からある本のカードにも生年を書き加えることも</p> <p>28</p>
--	---

ておかしくないですか」の質問が出て、図書館には小説以外もあることを意識させられていないことに気づかせる。「大人向けの作品は別名義にしている人もいるので、あばかないであげてほしい」も興味深い。そして、現在は国会図書館が著者名典拠ファイルを公開しているが、対応しているシステムは多くないことを説明している。

最後に、ここではじめて、最近新しいルールに変わり、いわば“作品名典拠”もすることになったとの説明 (図 4) をしてこの回は終わっている。

図 4 “作品名典拠”のスライド (部分)

<p>8 作品もまとめたい</p> <ul style="list-style-type: none">原作と“派生作品”のつながりが分かるように<ul style="list-style-type: none">『アナと雪の女王』の絵本は、映画の派生作品『アナと雪の女王』には原作があり、それがアンデルセンの童話『雪の女王』たまたま同名の作品が関係ないと分かるように<ul style="list-style-type: none">同じ曲名だけど別の曲 <p>33</p>

3.3 第 12 回「日本目録規則の構成と特徴」

この回では、著作-表現形-体现形-個別資料の“4 階層”だけを取り上げた。

まず、現在も多くの図書館システムは以前の NCR に基づいていることを説明し、4 階層の説明の導入として、「現在のシステムでも書誌の登録と所蔵の登録は別画面になっている」ことを Next-L Enju [4] のデモサーバーの画面を見せながら実演した。個別資料という概念を、“別画面”と見えるようにすることを試みた。「こうすることで OPAC で検索したときに副本があってもひとまとまりに出る」「この仕組みがなければ、全ての副本に予約がかけられて混乱する」で多くの学生は受け入れられるようである。

次に、「ただ、以前の NCR、つまり現状のシステムでは、単行本と文庫本は別の本として表示される (図 5)」が、「“新 NCR” では、別作品は別作品と区別されるとともに、派生作品などは OPAC

図 5 文庫本と単行本は別のスライド



内で分かりやすくだとれるようになる (図 6)」と、メリットを説明している。NCR2018 ではなく、

図 6 「4 階層が実装されたシステムの場合」のスライド (部分)

<p>4.3 OPACが新NCRに対応した後、<u>利用者が検索したときの想像</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “火花”で検索、と 2. そうか、又吉とは全く関係ない火花もあるわな、、、あった 3. あれ、ドラマ版のDVDだったのか 4. でも、いろいろ演者とかが書いてあるなかで、“派生元作品”と書いてある。これをクリックしたら、、、原作にたどり着けた 5. 中国語版ではなく、日本語版をクリック <p>29</p>	<ol style="list-style-type: none"> 6. 文庫本をクリックして、あれ、今いる図書館のは全部貸出中か、、、じゃあ単行本をクリック 7. 単行本はある。じゃあこれを借りて帰ろう <ul style="list-style-type: none"> ● 今は全く関係ない本も、DVDも、中国語のもの、全部ランダムに出てくる <p>30</p>
--	---

新 NCR という言葉を使っている。

大福帳では「図書館の検索で派生作品とかたどれるのは便利。早く機械が対応してほしい」との感想とともに、「司書の仕事が増える」や「利用者にとってそんなに必要? と疑問に思いました」と

いう反応も出て、学生に考えさせることができていると感じている。

この回の最後には、4 階層のモデルとして、「現状のシステムでは書誌と所蔵の 2 段階だが、新 NCR に基づいたシステムでは 4 段階になっている」と説明し (図 7)、4 階層の境目を判断するこ

図 7 「4 階層」を説明するスライド XX

5.1 4 段階に分けて入力

著作 作品名・責任表示などを入力
原作と派生作品を区別

表現形 翻訳者・翻訳タイトルなどを入力
原作と日本語訳などを区別

体現形 出版者・大きさなどを入力
単行本 / 文庫本などを区別

個別資料 図書館で貼るバーコードの番号を入力
同じ本が 2 冊以上あるときを区別

32

との難しさと、明確に定められていないことを説明している (図 8)。

図 8 「4 階層の境目を判断することの難しさ」のスライド (部分)

5.2 別作品? 派生作品? 翻訳レベル?

- ある小説とその映画化
- ある小説とそのマンガ化
- ある古文とその現代語訳

33

5.3 映画化のレベルは決まっていない

- 解説本によって違う
- 『源氏物語』の現代語訳は、翻訳レベルということになっている
- 専門家からも、ちゃんと決めておいてほしい、との意見は出ている

36

大福帳では、「映画化は結局、派生作品か翻訳レベルかどっちですか」「きちんとルールを決めるべき」とともに、「『ハリー・ポッター』のように原作と映画がほぼ同じのもあるし、『ジョジョ』みたいにファンからしたら別物にしか思えないものもあるから、決められないのは分かる」も出された。

3.4 第 13 回「新 NCR の今後」

この回では、

- FRBR と RDA について
- RDA と新 NCR の比較

- 新 NCR は IFLA LRM に対応していないが、新 NCR が今後どう対応するのかわからない
- ただ、IFLA LRM でも「どこまでが著作権かはここでは決めない」方針なので、IFLA LRM 準拠になったとしても全て解決するわけではない

ことを紹介して、NCR2018 の内容は終えている。

ただ、この回は、この後に説明したコピーカタログギングが学生にとっては強く印象に残っているようで、大福帳には「司書の就職試験受けようと思ってるので、FRBR も RDA も頑張ってる覚えです」ぐらいしか NCR2018 に関する内容は書かれていなかった。興味を持たせることはできなかったと言える。

3.5 第 14 回「コンピュータ目録の概要: MARC」

この回は「NACSIS-CAT の書誌データを全く作成しない館があるが、このままでいいか」を学生と議論した。

4. 「演習」で NCR2018 を取り上げるなら、完全準拠のシステムが要る

「情報資源組織論」で NCR2018 のコンセプトを伝えることは意味があると思う。ただ、「情報資源組織演習」で手軽に使える NCR2018 に基づいたシステムは現在のところ見当たらない。「演習」のためには、カードに書かせたり、エクセルに入力したりするのではなく、NCR2018 に完全に準拠したシステムがあってほしいと考える。

具体的には、

- エレメントなどの用語はすべて NCR2018 で用いられている用語になっている
- 著作の属性を入力して“次へ”をクリックし、表現形の属性を入力して“次へ”をクリックし、、、と 4 階層が意識できるよう、わざと入力画面が分かれている
- 役割や関係などの定められている関連指示子は、キーボードから入力するのではなく、プルダウンなどで選ぶようになっている
- 典拠形アクセス・ポイントには、VIAF や Web NDL Authorities の ID を入力する
 - － ID を入力すれば外部のデータが取り込まれ表示される
 - － ただ、いきなり漢字で入力しても、外部から引いてきた候補が漢字変換のように表示される

などと実装されていてほしい。また、学生は同じ授業時間に同じ資料で演習するので、ログインし学生ごとに書誌データが衝突しないような設計であってほしいし、教員からどの学生がどのような書誌データを作成したのか分かるようになってほしい。実際に使われる図書館システムでは必要ない教育用の機能も必要である。

このシステムがあったとき、実際の演習では、

1. 副本を追加する
2. 単行本の書誌データがある場合に、文庫本の書誌データを作成する
3. 英語の原作がある場合に、日本語の翻訳の書誌データを作成する
4. すでに著作がある(VIAFに載っている)作者の新しい著作の書誌を作成する
5. 新しい“個人”のとき、個人のデータを作成する

など、順を追って進めていくのがよいと考える。

5. 授業をしていく上での問題点・私の課題

あらためて、一般的な教科書の内容には遠く及ばない内容しか教えられていない。第13回の教え方は改善しなければならない。ただ、多くの学生にある程度内容を分かってもらおうようにすると、頑張ってもあと2割ほどしか増やせないとも感じている。また、内容を減らした分、目録の本質をとらえられているかも自信はない。

そして、目録に興味を持ってもらえたかもはっきりしない。ただ、記述目録法ではないが、「BSHを作った人の顔を見たい」と大福帳に書いた学生はおり、いくらかは自分ごととして考えることができているのではと思っている。

今後、皆様からの考えを伺って、情報を交換し、より良い授業を考えていければと思っている。

注

本稿は2019年7月20日に筆者が発表した「司書科目「情報資源組織論」「情報資源組織演習」をどう教えるか」(日本図書館研究会 第190回 図書館学教育研究グループ&情報組織化研究グループ合同例会)に現在の状況を追加し、再構成したものである。

参考文献

- [1] 蟹瀬智弘『NCR2018の要点解説: 資源の記述のための目録規則』 樹村房, 2023, p.100-101, 170.
- [2] TRC データ部ログ管理者「本の本籍「出版者」の話～MARC MANIAX 目録 2022 ⑨～」『TRC データ部ログ』2023.2. <<http://datablog.trc.co.jp/2023/02/27133003.html>>. [引用日: 2023-09-30]
- [3] 「国立国会図書館『日本目録規則 2018 年版』「第2部 セクション2 著作、表現形、体現形、個別資料」適用細則(図書)(2021年1月)」の#2.6.1.2.3 <https://www.ndl.go.jp/jp/data/catstandards/ncr_regulations/02-05_bk_202101.xlsx>. [引用日: 2023-09-30]
- [4] Kosuke Tanabe, Project Next-L 「えんじゅ図書館」 <<https://enju.next-l.jp>>. [引用日: 2023-09-30]

(おかだ だいすけ)

2023年10月22日受理